

助手席 vs. passenger seat

松 田 裕

今を去る70年程前、私が中学一年生の頃に、オヤジと叔父とタクシーに同乗していた時、運転手の隣に坐っている青年が、目的地に近い地点で降り、何かを確かめて戻ってきたことを憶えている。この青年は『小学館日本国語大辞典』(2001)が、「助手」の4番目の定義で「かつてタクシーなどで、運転見習いを兼ねて運転手の隣に乗っていた人」として挙げている助手さんであった。同辞典は田中英光『オリンポスの果実』(1940)からの用例「運転手と助手から、荷物を運び入れてもらったり……」を引用している。私のあやふやな記憶の中の昭和10年代初期のあの年とこの小説の発表年が略々近いことから、少なくともこの頃までは、タクシーの助手は細々ながら存在していたのであろう。何時頃から存在しなくなったかという、タクシーを乗り廻す身分でなかった中学生には観察の機会がなかったので、何とも答えようがない。しかし、当時日支事変が拡大し、召集される青年が多くなるにつれ、青年労働力が逼迫して、それ程必要でもないタクシー助手の成り手はいなくなってしまったに違いない。その結果が現在まで継続しているわけで、運転席の隣を占有する筈の人間がいなくなっているのに、「助手席」という抜け殻のような化石的名称が、傲然と居座っているのである。『研究社新和英大辞典』(1974)は「助手席」に **assistant driver's seat** という訳語を与えている。字義通りで正確ではあるが、現在の実態に即していないので適切ではない。(もっとも、運転手の横に坐っている助手のような人を見かけることのあるトラックなどには適用可能かもしれない。) **the seat next to the driver's seat** という訳語を与えている和英辞典もあ

るが、対象をソノモノズバリ直接に呼称しているのではなく、迂遠な説明的表現なので今一つの感がある。

またある辞典は「(主に英) **the passenger seat**」を当てている。乗客席を原義とするこの簡潔な表現は、タクシー用語だったのが、一般自動車にも適用されて普及したのだろう。米国のミステリー小説においてもしばしばお目にかかるので、むしろ英米共通であり、「助手席」の意味で最もよく用いられる表現との印象を受ける。個人所有の自動車の氾濫が常態化している今日、自家用車という呼称は余り耳にしなくなったが、自家用車の所有利用では日本を凌駕している英米で、家族や知人に利用させることが多い助手席を **passenger seat** と呼ぶのは、同乗者を乗客扱いしているようでやや難がある。

念のため英米の英語辞典の **passenger** に対する定義を確かめたところ、大同小異ではほぼ一定している。

米国の *World Book Dictionary* (1978) は、“a traveler in a train, bus, boat, airplane or car, usually one that pays a fare” と、通常運賃を支払う旅人を指すとしているが、英国の *New Oxford Dictionary of English* (1998) のそれは、“a traveller on a public or private conveyance other than the driver, pilot or crew” であって、公共交通機関、もしくは私的交通便を利用している旅行者であるが、運転者、パイロット、乗務員を除外している。従って日本語の「乗客」(船・車・航空機など交通機関に乗る客『広辞苑』第5版) よりもやや広義であって自家用車の同乗者を排除していない。**car** と並んで **passenger car** が「乗用車」として通用しているのだから、**passenger seat** に対してもわが国の「助手席」ほどのズレは感じないのであろう。

She glanced down at the route map she'd placed on the passenger seat beside her.....

—Jeffrey Archer, *False Impression* (2006)

Tabby sat the other side of him, leaving the passenger seat empty.

—John le Carré, *The Night Manager* (1993)

As she turned to Sandy in the passenger seat, she whispered, “You’re

really cute, did you know that?” —Erich Segal, *Prizes* (1995)

I unlocked my car and slid under the wheel....

I turned off the flashlight, laid it on the passenger seat.

—Sue Grafton, *“P” is for Peril* (2001)

因みに the passenger’s seat と所有格を用いる場合もある。

Forcing himself to relax his shoulders, he climbed into the passenger’s seat with a cheery wave.

—Dan Brown, *Deception Point* (2002)

前出の『研究社新和英大辞典』に新版が出ていたのに気づいて、参照したところ、[乗用車などで運転席となりの席] the passenger seat ; [運転助手の席] the assistant driver’s seat と定義を2分した上で、それぞれに妥当な訳語を与えていた。

乗客席は後部にもあるという意識から生み出されたと思われる、front (前部) で passenger seat を限定修飾した、the front passenger seat は、イギリス英語、米語いずれでも見受けられる。この長ったらしいフレーズから front が省略されて、前部乗客席を単に passenger seat と呼ぶようになったのかもしれない。

She got into the front passenger seat.

—Jack Higgins, *The White House Connection* (1999)

...., and Bennet slumped into the front passenger seat and let his head loll back.

—Erich Segal, *Doctors* (1989)

この二表現に加えて、単に front seat (原義 前部座席) と呼ぶことも少なくない。その多くは文脈によって「助手席」に当たると察しが付く。

I went right to the front seat. No file. After a moment of panic, I found it behind the driver’s seat, on the floor intact.

—John Grisham, *The Street Lawyer* (1998)

I watched as she settled her daughter in the front seat and then went

around the rear of the car and slid under the wheel.

—Sue Grafton (2001)

I looked to my left and calculated the trajectory of a bullet fired from the front seat through the driver's head, through the car window, and into the wall. —Sue Grafton (2001)

Fernandez said, 'Who's going to drive?'

'I will,' Alan said,

Sanders looked at Fernandez sitting in the front seat, behind the rain-spattered windshield.

—Michael Crichton, *Disclosure* (1994)

しかし the front seat は前部座席という意味にも取れる曖昧な呼称なので、運転席 the driver's seat を指示していることもある。

..... but the sight of the body in the front seat of the car had left me unsettled.

—Sue Grafton (2001)

この程度の文脈だけでは、the front seat が運転席、助手席のいずれを指しているのか定かでないが、この箇所から百数十頁後に、

“...the engine's running, he's got the car in gear, and his foot on the brake.....”と現場の状況が詳細且つ明瞭に述べられているので、被害者は運転席に坐っていたことが分る。次例でも the driver's seat であることは、簡単な叙述に過ぎないが容易に推察できる。作家は driver を同一文で2度繰り返すのを避けたかったのだろう。

The driver closed the door behind him and returned to the front seat, puzzled. —Jeffrey Archer (2006)

They were in the rear of a black Mercedes,....., with a driver who was silent in the front seat....

—John Grisham, *The Broker* (2005)

このフレーズが運転席と助手席を指示することから、複数形が出現するのは

当然である。

The front seats were spotless and carefully ordered.

—Michael Crichton, *Prey* (2003)

運転席に当る the driver's seat / the driver seat については、ピッタリした表現であり問題ではないので特記する必要はない。

She then went to the front and squeezed herself into the plastic-covered driver's seat. —Jeffrey Archer (2006)

The dark-haired gentleman in the driver's seat did not smile.

—Dan Brown (2002)

the driving seat を相当語の一つとしてあげリージョナルラベル (英) を付している辞典がある。確かに米語ではでくわさない語であるが、イギリス英語でも稀である。

He switched off the phone and got out of the van and went round to the driving seat.

—Jack Higgins, *The President's Daughter* (1998)

残るは後部座席であるが、backseat / rear seat がこれに相当する。あるいは in the back / rear of the car ですませている場合もある。いずれも英米共通。前述の the front passenger seat と対になるような the rear passenger seat があるが、時折でくわす前者に比較すると稀であって、一度だけ拝顔の栄に浴したものの、残念ながらソースを書きとめるのを失念してしまった。幸い長男がデータベースから検索した別の用例を提供してくれた。

Mr. Bell got into the driver's side of his 1999 Nissan, with Mr. Guzman next to him and Mr. Benefield in the rear passenger seat. —*The New York Times* (Dec 11, 2006)

あとがき

現代英米のミステリー小説を楽しんで読んでみると、英米の社会や個人の生活が、自動車を中核にして動いているのではないかと錯覚しかねない程、自動車がひんばんに登場して、事件を進展させ、解決へ導く一要因になっていると痛感させられる。ミステリーの不可欠な舞台である自動車の内部構造の呼称を正確に把握する必要に迫られた次第である。